

## 公開質問状回答 田中 りか

質問1 あなたの政策について教えてください。

- ① 市民の皆さんとの懇談会を定期的に行う。
- ② 子育てしやすい宗像市にする。
- ③ 教育が充実している宗像市にする。
- ④ 働きやすい・暮らしやすい宗像市にする。
- ⑤ 地域交通が充実している宗像市にする。
- ⑥ 災害に強い宗像市にする。
- ⑦ 地域文化への支援が充実している宗像市にする。

質問2 質問1の中で、特に取り組みたいことは何ですか。

②の「子育てしやすい宗像市にする」です。

宗像市は、人口は減っていないですが、増えてきているわけでもありません。

逆にこれから減っていくでしょう。そうならないためにも、若い方が宗像市に住みたいと思ってくれることが大切だと思っています。

子育ては未来の宗像をつくります。その子ども達が、元気で自由でのびのびと育てる環境が必要です。そして、宗像市を好きでいてくれなくてはなりません。子育てのためには、保育料・学校給食・医療費などを無償化することも大切です。また、元気な子どもをつくるための環境も、整えなければなりません。そのためにも、教育現場の見直しが必要になります。

質問3 宗像市でも高齢化が進んでいますが、介護が必要になっても自宅で暮らしたいと思っている人が多くいます。そのためには何が必要だと考えていますか。

身体的機能や、認知機能が衰えないようにするため、ディサービスの利用や訪問介護(看護)の充実。そして地域住民との関わりを維持することで、自宅で生活ができるようになると思います。また、社会との接点を保つためには、買い物などの外出も必要なので、公共交通機関についての見直しも必要と考えます。

質問4 ファミリー・サポート・センターが福岡都市圏では唯一、宗像市にはありません。子育て世帯からは設置を望む声を聞きますが、そのように考えていますか。

ファミリーサポートセンターとは、子育て支援事業を行うために設立されたもので、保育園や幼稚園など保育施設としての機能ではなく、地域における「相互援助組織」となります。これは、依頼会員(預ける側)と提供会員(預かる側)がファミリーサポートセンターを介して子育てがしやすくなる組織です。宗像市にはありませんので、周知されていないと思いますが、大切なつなぎ役です。宗像市はボランティアの方がたくさん活動してくださっています。しかし、事故等が起きた時、ボランティアの方に大変な思いをさせてしまいます。預ける側も預かる側も安心できるように、宗像市が「ファミリーサポートセンター」を作ることが大切だと考えています。

質問5 不登校の児童生徒が増えています。「エール」や「ホープ」が設置されていますが、利用している子どもは一部です。すべての子どもに教育を保障するためにどのような取り組みを考えていますか。

不登校になる児童や生徒の理由は、それぞれ違います。「エール」や「ホープ」の取り組みは良いところもいっぱいです。しかし、そこまで行けない子ども達もいます。地域の学校内での取り組み(不登校生の教室)を考えるべきだと思っています。専門知識を持ち、経験のあるスタッフが必要です。

質問6 中学校の部活動が地域展開(移行)されていますが、どのように考えていますか。

市議会ですっかり話し合いもされず、教員との話し合いもないまま、国が進めるままに始められてしまったことは、大変遺憾に思っています。例えば、春日市では、令和5年から何度も会議が行われています。そして、サッカー部や吹奏楽部の移行への試行が行われ、地域へ移行することが難しいという判断にいたり、しばらくは部活動をそのまま進めるという結論に達しています。福津市も今後のことはまた考えるとしていますが、部活動をそのまま進める形にしています。部活動は異年齢との交流の中で生徒同士や教職員と生徒の繋がりができ、自己肯定感を高めるためにもとても重要な役割を持っています。人間関係の形成やコミュニケーション能力の育成にとっても大切だと言えます。いろいろな形を考えて、もう一度考え直すべきだと思います。

質問7 学校給食の食材の地産地消を進めることや、オーガニック化についてどのように考えていますか。

宗像市は全ての小学校・中学校が自校式です。これは素晴らしいことです。市民の願いから始まった学校給食の自校式。子ども達が安全で、安心できる給食を食べられるようにと始めました。そのため、それぞれの学校が栄養を考えて、献立を作っています。地産地消が大前提です。安心して食べられるということでは、無農薬野菜(オーガニック野菜)が最適です。

慣行栽培・・・一般的な栽培方法で、農薬や化学肥料を使って栽培されます。

有機栽培・・・農薬や化学肥料を使わない栽培方法で、さらに遺伝子組み換え技術を使用しません。

特別栽培・・・農薬と化学肥料の使用量が既定の半分以下に制限されている栽培方法です。オーガニック野菜は有機栽培で作られる野菜です。形は悪いけど、栄養満点で、畑にとってもいいということは環境にもいいということで、脱炭素を目指す地球はこの栽培方法が必要になるでしょう。学校給食に使うのには、その形は関係ありません。子ども達の健康を保つためにも、オーガニック化を考えなくてはいけないと思っています。